

東京大学大学院人文社会系研究科

次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣帰国報告 平成 22 年 10 月 15 日
平成 22 年度夏学期個人派遣 文学部行動文化学科心理学専修コース 4 年 渡辺雄太

研究テーマ 「色に関する共感的認知と文化差について」

派遣先での活動

(1) 派遣先の基本情報

アメリカ合衆国カリフォルニア州バークレーのカリフォルニア大学バークレー校心理学部に滞在した。主に Stephen Palmer、Karen Schloss、Bryan Alvarez、Lynn Robertson といった研究者とコンタクトをとってきた。

(2) 派遣期間

7 月 18 日に日本を出発し、8 月 16 日に帰国した。総日数は 30 日であった。

主な研究成果

(1) 当初の計画の概要

共感覚とはある感覚入力によって通常は喚起されないはずの感覚が生じる現象であり、100 人に 1 人程度の割合で存在する。共感覚には様々な種類が存在するが、最も多いのが文字によって色覚が生じるタイプの共感覚である。派遣先では、色に関する共感的認知と文化差に関する現地の心理学実験の補助を行う。その中でアメリカの学生や研究者と議論を交わして自分の考えを英語で伝えると同時に、アメリカで行われている最新の研究やそれに対する彼らの考えを吸収する。

(2) 実際に達成された成果

受け入れ先である Palmer ラボでは、色の共感的認知に関する論文を読み研究室のメンバーとディカッションを行った。研究室全体で行われるミーティングにも参加し、研究室のメンバーが行っている研究に関して議論をした。また、共感覚研究を専門とする Bryan Alvarez の実験の補助を行ってきた。Bryan が行っていたのは、共感覚者が文字や数字に対して持つパーソナリティーに関する研究である。これは、数字や文字が人格を持っているように感じられる現象で共感覚の一種とされる。この現象では、複数の数字（あるいは文字）を同時に呈示すると、それらが単一のパーソナリティーを形成することが知られている。そのパーソナリティーの形成のされ方を調べる実験の組み立てと被験者集めの補助を

行った。また、共感覚研究の分野で世界的に有名なLynn Robertsonとは、共感覚の現象全般に関する議論を行ってきた。

(3) 今後の研究展望

文字や数字がパーソナリティーを形成する現象も共感覚の一種と考えられ、その形成のされ方には概念の影響が大きく見られる。文字や数字から色覚が生じるタイプの共感覚も似たような特性を有すると考えられ、今後は概念の影響を考慮して研究を進める。また、今後研究を進めていく上で文化間の比較が重要になってくる局面も出てくる可能性が高い。将来的に文化間での比較研究を行う際は、今回の人脈を利用して研究を進めていくことが考えられる。